

## 第23回JACR学術集会 開催報告……1p

第23回JACR実務者研修会報告……2p  
MCIJデータ、SEERデータを用いた造血器腫瘍罹患率の日米比較……3p  
学術奨励賞をいただいていること……4p  
JACR委員会報告:広報委員会/教育研修委員会……5p  
JACR委員会報告:学術委員会/国際交流委員……6p  
JACR委員会報告:安全管理委員会/モノグラフ編集委員会……7p  
登録室紹介 大分県/京都府……8-9p  
登録室リレー随筆……11p  
平成26年度通常総会報告……12p  
事務局だより/有料刊行物のお申し込み……14p  
NCC地域がん登録室便り/賛助会員募集/関連学会一覧……15p  
モモコさんと紫本/賛助会員一覧/編集後記……16p

## 第23回JACR学術集会 開催報告



中瀬 一則 第23回学術集会会長

三重大学医学部附属病院がんセンター

第23回学術集会を6月12、13日の両日に、「がん登録推進法の成立をうけて」をテーマにして、三重県で開催させて頂きました。天気予報で悪天が予想されましたが、直前に晴天となり、参加された方々の日頃の善行のおかげと感謝致しております。会場に関しても、当初、予定していた三重大学三翠ホールの耐震工事のため、場所の選定に苦慮しましたが、幸い、三重大学のがんセンターと三重県の歯科医師会の間で医科歯科連携の協議を進めていた経緯もあり、歯科医師会の御好意で津市の歯科医師会館を2日間お借りすることができました。津駅から徒歩で数分ですので、電車でお越しの方にも、ご不便はおかけしなかったかと思います。12日の実務者研修会には124名、13日の学術集会には172名の延べ296名の多数の方が参加されました。また、ご来賓には鈴木英敬三重県知事はじめ多数の方にご臨席頂き、ご祝辞を賜ることができました。

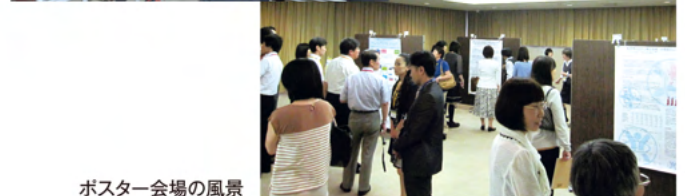


知事ご臨席のもと、開会挨拶する筆者

三重県のがん登録への参入は平成23年度からで、他県よりかなり遅れましたが、何とか三重の心意気を感じてもらおうと、がんセンターの福留寿生医師を中心に今までにない企画を入れようとアイデアを凝らしました。初日の実務者研修会では、クイズ形式の参加型研修会を行い、実務者のがん登録のレベルが確認できたかと思います。成績優秀者には、懇親会で三重の特産物の景品をお渡ししました。そのあと、三重大学病理学の白石泰三教授の「がん」の講義を受けて頂き、引き続いて全国を6ブロックに分けて、地域ブロック別研修会



クイズ形式の参加型研修会



ポスター会場の風景

を行いました。地域内の実務者同士で直接、顔を合わせて有意義な交流が図れたのではないのでしょうか。2日目は、がん民族疫学の世界的権威である三重大学田島和雄客員教授の「がん登録今昔物語」の講演、片野田耕太氏の学術奨励賞受賞講演のあと、「がん登録推進法で都道府県のがん登録はどう変わる?」をテーマにしたシンポジウムを行い、全国がん登録への取り組み方についてディスカッションをして頂きました。今後のがん登録のがん対策への活用につながる契機になればと願っております。

至らぬ点多かったかと思いますが、参加者の皆様のおかげで、滞りなく学術集会を終了させて頂くことができました。改めて御礼を申し上げたいと思います。また、この学術集会の様子は地元テレビで放映され、各新聞紙上でも記事が掲載されましたので、地域住民の方のがん登録の認知にもつながったと思います。来年度の群馬県での学術集会の盛会をお祈りして、第23回の開催報告とさせていただきます。

## 第23回JACR実務者研修会報告

福留 寿生 専門委員

三重県地域がん登録室



今回の実務者研修会では、「クイズ形式の参加型研修会」と「地域ブロック別研修会」の2つを企画し、全体で124名の方に参加していただきました。



クイズ形式の参加型研修会 表彰式

前半の「クイズ形式の参加型研修会」は、地域がん登録に関する幅広い知識を参加者全員で再確認することを目的としました。クイズ問題は、登録実務者、行政担当者、研究者など様々な職種が参加することに配慮して、栃木県立がんセンターの大木先生、愛知県がんセンターの伊藤先生、三重大学の福留の3名が問題を作成し、国立がん研究センターの柴田先生、宮城県立がんセンターの西野先生に助言をいただきました。各個人に電子投票機を配布して問題毎に投票していただき、投票結果の分布はその場でスライド上に投影し参加者全員で確認できるようにしました。集計結果の詳細に関してはいずれ改めてご報告したいと思います。実務者の正解率は予想以上に高く、参加者の皆様が日常実務や研修会を通じて知識の取得に努力されている成果であると思われます。一方で正答率の高くない分野もあり、集計結果に関しては今後の実務者研修の内容に反映していただけるよう研修会担当の先生方にご報告したいと思います。いろいろ反省点はあるのですが、参加した皆様からは概ね好評をいただくことができ、出題者側の私自身もとても勉強になりました。

後半の「地域ブロック別研修会」では、日頃顔を合わせる機会の少ない近隣県の実務者が集まって議論していただく場として企画しました。JACR理事会のメンバーに6つのブロック毎の代表世話人をお願いし、それぞれ独自のテーマで議論していただきました。がん登録推進法に関する話題や、地域がん登録データの利用といったテーマが中心となりましたが、各県よりたくさんの資料を持ち寄って頂いたブロックもあり、小グループにしたことでより活発な議論ができたのではないかと思います。この企画では、実務担当者の皆様に情報をお届けするための地域ブロック別メーリングリストが役に立ちました。今回の企画を地域ブロック単位での交流のきっかけにいただけると企画者としてとてもうれしく思います。



地域ブロック別研修会(九州・沖縄ブロック)

最後に、研修会の企画にご協力いただいた、理事会およびブロック別研修会世話人の皆様、および遠方より三重県にお越しいただいた参加者の皆様に、現地事務局一同心より感謝いたします。

論文  
紹介MCIJデータ、SEERデータを用いた  
造血器腫瘍罹患率の日米比較

千原 大



愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部

先天的な疾患を除き、疾病は非腫瘍性疾患であれ、腫瘍性疾患であれ遺伝的な素因に様々な環境因子への暴露が蓄積した結果と考えることができます。従って異なる集団における罹患率の比較や罹患率の傾向の評価をすることでその背景にある遺伝的素因、すなわち人種差や異なった環境因子への暴露を推察できる可能性があります。こういった背景がありながら、日本における造血器腫瘍の罹患率の算出を詳細病型で行った研究がなかったため、今回MCIJデータ、米国のSEERデータを用いて造血器腫瘍の罹患率を算出し、その比較を行いました。

研究の対象になった集団は1993年から2008年までの期間にMCIJデータに登録された日本で12.5万人、SEER9データに登録された米国で17.3万人の造血器腫瘍の患者で、日本のデータは人口の33%、米国のデータは人口の9%をカバーするデータになります。世界標準人口で調整を行い、10万人年あたりの年齢調整罹患率を算出し、罹患率の経年推移の検討にはjoinpoint回帰分析を用いました。

2008年時における造血器腫瘍全体の罹患率は10万人年あたり日本で男性18.0、女性で12.2、米国で男性34.9、女性で23.6であり、男女比は両国ともほぼ同等で1:1.5、日本と米国の罹患率の差は2倍近いことが分かりました。病型別に見ると、2008年時の急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫の年齢調整罹患率は日本でそれぞれ、1.9、1.1、0.5、0.5、5.9、1.5に対し、米国ではそれぞれ2.5、1.7、0.9、2.7、15.7、3.8で、罹患率が最も高いのは両国共に非ホジキンリンパ腫、罹患率が最も低いのは両国とも

に慢性骨髄性白血病でした。日米間で最も大きな罹患率の差が見られたのはホジキンリンパ腫(5.1倍)、ついで非ホジキンリンパ腫(2.7倍)、多発性骨髄腫(2.5倍)でした。日本では造血器腫瘍全体では罹患率が年率2.4%で増加傾向にあり、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫が最も顕著に年率6%程度で増加していることに対し、慢性骨髄性白血病は年率2%で有意な減少傾向にありました。

今回我々が検討したように、SEERデータを用いた他の研究でも、各種病型間で人種背景が罹患率に与える影響が大きく違うことが報告されています。造血器腫瘍の中でも特に慢性リンパ性白血病やホジキンリンパ腫結節硬化型などは明らかな人種間での罹患率の差を認め、環境因子のみでなく、人種的な背景が疾患リスクに大きく関与している可能性が高いと考えられます。日本で最も有意に増加している悪性リンパ腫については肥満や欧米型の食事が非ホジキンリンパ腫のリスクを上昇させることが報告されており、日本の食生活や生活習慣が変わっていく中でこの増加傾向が続くかどうか、継続した検証が必要と考えられます。

地域がん登録データはこのように、各種がんの特徴や流行を分析・モニタリングする手段として非常に重要です。全国において地域がん登録の精度向上が進み、より多くの記述疫学研究などを通してがん対策に利用されるようになれば素晴らしいと感じます。なお、この研究はBritish Journal of Haematologyの2014年2月号に掲載されました。データを日々構築され、管理されている関係者全ての方にこの場をお借りして深謝申し上げます。

## 日本及び米国の造血器腫瘍年齢調整罹患率とその比(2008)

疾患	日本 罹患率/100,000	経年変化	米国 罹患率/100,000	経年変化	罹患比率 (米国/日本)
全造血器腫瘍	14.9	+2.4%*	28.8	+0.1%	1.9
急性骨髄性白血病	1.9	+0.8%	2.5	-0.3%	1.3
急性リンパ性白血病	1.1	+0.0%	1.7	+0.8%*	1.6
慢性骨髄性白血病	0.5	-2.2%*	0.9	-1.7%*	1.7
ホジキンリンパ腫	0.5	+6.5%*	2.7	+0.3%	5.1
非ホジキンリンパ腫	5.9	+6.8%*	15.7	+0.9%*	2.7
多発性骨髄腫	1.5	+1.1%*	3.8	+0.1%	2.5

\*統計学的に有意な変化

## 学術奨励賞をいただいて思うこと

片野田 耕太 専門委員

国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計研究部



私が地域がん登録に初めて触れたのは2005年7月のことです。がん登録の「が」の字も知らなかった自分が、地域がん登録全国協議会の学術奨励賞という名誉ある賞をいただくことになるとは、諸先輩方に対して面映ゆい気持ちがいたします。この10年間はいわゆる「対がん」(第3次対がん総合戦略研究事業)の10年間とほぼ一致しています。その間に「がん対策基本法」が成立し、私の所属である「がん対策情報センター」ができ、昨年にはがん登録の法制化も実現しました。同じ職場に長くいるとマンネリ化しがちかもしれませんが、私の場合はそれなりに変化の多い10年間だったような気がします。

実は、この賞に応募させていただくことを決めてから、一つの迷いが私の頭から離れませんでした。国立がん研究センターに所属する私がこの賞に応募していいものか?という疑問です。ご存知の通り、地域がん登録全国協議会は、事務局が国立がん研究センター内にあります。今年の5月に新しい建物に引っ越してから、事務局の場所は私の机から10mも離れていません。私自身は地域がん登録全国協議会には直接関わっておりませんが、物理的な距離からすれば、自作自演の感否めないというのが正直な気持ちでした。

「対がん」の10年間で、地域がん登録の標準化と精度向上は飛躍的に進みました。全国がん罹患モニタリング集計に参加する都道府県の数だけで見ても、15程度だったのが40近くに増えました。私自身はデータ活用という形でこの飛躍的な進歩の恩恵にあずかっていたほうですが、「対がん」の10年が終わる節目に立ち会って、そろそろ恩返しをしなければと感じ始めていた、そんな折に伺ったのがこの賞のお話です。

地域がん登録は50年以上の歴史があります。今回賞をいただいた研究では、宮城、山形、福井、大阪、および長崎の5府県のデータを使わせていただき、1980年代からの年次推移の検討を行いました。ほかにも、広島市や愛知県をはじめとして、歴史と実績のある地域がん登録はたくさんあります。私が研究テーマとしてきたことはすべて、これらの地域で培われてきた知恵を受け継いだだけのものです。

一方、地域がん登録を始めて間もない県もあります。地域がん登録全国協議会のウェブサイトを見ますと、2010年代になってから地域がん登録を開始した県が10以上あります。法制化によって47都道府県のすべてに地域がん登録がそろそろと言っても、データやノウハウの蓄積が過去に遡って生まれるわけではありません。産声をあげたばかりの地域は、先達の知恵をたずね、長い時間をかけて自分のものにしてゆかなければなりません。



講演のようす

2016年に予定されている「全国がん登録」の開始で、地域がん登録の精度と情報量はさらに増すでしょう。そこからあがってくるデータの質をどう評価し、どう活用し、どう対策につなげていくか。今後数年間、地域がん登録はその真価を問われることが予想されます。そんな中、私がお役に立てることがもしあるとすれば、歴史ある地域がん登録の知恵を、新しい地域へと伝えていくお手伝いなのかなと思っています。新しい時代を迎えるにあたって、地域がん登録の過去を未来につなげる仕事ができれば、今回いただいた賞の一つの恩返しになるかなと考えております。

## 協議会広報委員会の活動

### 井岡 亜希子 理事

大阪府立成人病センター  
がん予防情報センター 企画調査課



広報委員会では、会員の皆様が所属される地域がん登録事業の広報のあり方・支援を第一に取りあげたいと考えております。地域がん登録事業を実施していく上で、一般の方々や医療機関の皆様のご理解・ご協力は重要です。また、「地域がん登録はがん対策の羅針盤」といわれますように、効果的ながん対策を実現するために、地域がん登録資料の活用は欠かせず、「がん登録等の推進に関する法律」(2016年1月1日施行予定)では、各都道府県における都道府県がんデータベース(地域がん登録データ、全国がん登録データ<当該県在住者分および当該県所在の医療機関からの届出分>、都道府県独自項目を含めたもの)の構築、そのデータの活用が示されています。

そして、地域がん登録資料の活用は、情報提供の対象によってその内容が下記のように異なります。

1. 対象が都道府県のがん対策担当課の場合は、都道府県がん対策推進計画の企画と評価のための基礎資料
2. 対象が市町村の場合は、当該市町村のがん統計(罹患、早期診断割合など)
3. 対象が県民の場合は、がん登録・がん対策全般の情報

2016年診断症例から登録が開始される全国がん登録では、病院に届出義務が課されることから、現在は3.の広報の優先順位も高くなっています。広報委員会では、都道府県で行われるがん登録に関する広報の一助となるよう、リーフレット等の提案に取り組みたいと考えております。

## JACR委員会報告 教育研修委員会

### 柴田 亜希子 副理事長

国立がん研究センター  
がん対策情報センター がん統計研究部

教育研修委員会では、下記の3事業を展開しています。

第一事業:登録データの質の向上(QA作成等の協議)

第二事業:地域ブロックでの自主的教育・研修活動のサポート(金銭的、人的)

第三事業:実務者表彰制度の主担当及び表彰者の選考

委員は、平成24年4月の活動開始時から、私、国立がん研究センター 柴田、栃木県 大木いずみ先生、愛知県 伊藤秀美先生、平成25年3月から、三重県 福留寿生先生、大阪府 井岡亜希子先生 の5名です。

事業ごとの活動内容は、第一事業:登録データの質の向上(QA作成等の協議)として、国立がん研究センターがん対策情報センター地域がん登録事務局にメール等で寄せられた登録実務に関する質問の中で主にコーディングに関する質問について、教育研修委員に回覧し、合議によって回答を作成しています。質問回答は質問者に直接回答の他、定期的に協議会の会員専用サイトのQAに蓄積しています。第二事業:地域ブロックでの自主的教育・研修活動のサポートについては、残念ながら金銭的サポートはできておりませんが、各委員に所属する地域で任意の活動を行っていただいています。その他、協議会の学術集会時の実務者研修会の内容企画等、日本公衆衛生学会総会時の自由集会の企画、運営を毎年行っています。本年度の学術集会が委員の福留先生の所属の三重県で開催されたこともあり、実務者研修会は新しい趣向をこらされ、楽しい内容であったことはご承知のとおりです。日本公衆衛生学会総会の自由集会は昨年10月に同じく三重県で開催され、三重県地域がん登録関係者にご協力いただき、全国から13名の参加を得て、情報交換、意見交換をする貴重な機会を持つことができました。

教育研修委員会はいつでも自薦による委員を募集中です。特に、第二事業の企画運営に携わってみたいという方、お近くの委員にお声がけいただければ幸いです。

## JACR学術委員会 からの報告



田中 英夫 理事長／学術委員長

愛知県がんセンター研究所  
疫学・予防部

学術委員会は、現在、専門委員の祖父江友孝先生、理事の安田誠史先生、副理事長の西野善一先生と私田中の4人で活動しています。昨年から今年にかけての活動を振り返りますと、まず、昨年6月に秋田市で行われました学術集会の、学術委員会企画シンポジウム「地域がん登録の課題と展望」を企画しました。次に、12月8日に東京都内のJA共済ビルカンファレンスホールで開催しました、JACRの20周年記念シンポジウム「地域がん登録—その必要性と求められるもの」の企画を広報委員会と共同で行いました。また、今年で3回目となりました、JACR学術奨励賞の候補者の選考を、今年度の2月に実施しました。この選考方法をご紹介しますと、応募者の主要論文のコピーと論文リストを、4人の学術委員がそれぞれ精査し、①同賞の主旨に合った論文の本数、②学術的価値、③実用的価値、④地域がん登録事業への技術的貢献度について、それぞれ点数をつけ、それらの合計点で総合評価しています。評点に客観性を持たせることで、公平で適正な選考を心がけています。

昨年JACRにとりまして大きな事項の1つとして、ニュースレター2月号でもご紹介しましたように、初代理事長であります藤本伊三郎先生の名を冠した、若手のがん記述疫学研究者を励ます、「藤本伊三郎賞」を開設したことです。学術委員は、同賞の選考も行うことになり、第1回は、伊藤ゆり氏(大阪府立成人病センター)と松坂方士氏(弘前大学)に決まりました。その他、学術集会の優秀ポスター発表者の受賞者の選考も行っています。

学術委員は、各々の研究活動としても、国際がん登録学会での発表、JACRモノグラフへの投稿、各種国際学会や学術誌を通してのがん記述疫学研究本来の発表などにより、日本のがん登録資料の有用性を内外でアピールしています。7月から国立がん研究センターの片野田耕太氏が学術委員に変わり、益々の充実を図ります。

## JACR委員会報告 国際交流委員



松田 智大 事務局長

国立がん研究センター  
がん対策情報センター がん統計研究部

国際交流委員会の活動は、主に諸外国のがん登録や、国際がん登録協議会、国際共同調査の情報提供となっています。例えば、国際がん登録協議会(IACR)が5年に1度実施するCI5(Cancer Incidence in Five Continents、5大陸のがん罹患)及びロンドン大学衛生熱帯医学大学院のグループが実施するCONCORD STUDY(世界のがん患者生存率集計)へのデータ提出をアナウンスし、いくつかの県に対して、データ準備の支援を実施しました。また、IACRから届けられるニュースレターや海外のがん登録情報を日本語訳し、会員メーリングリストを利用して会員宛てに配信、情報を共有しています。以前より企画されていた海外関連書籍等の翻訳及び刊行についても着手したいと考えています。



5大陸のがん罹患のウェブサイト <http://ci5.iarc.fr/>

IACRの年次総会に参加する研究職の方々以外は、なかなか海外の事情に触れる機会がないために、国際交流委員会としては、国内の関係者と諸外国のがん登録をつなぐ橋渡しになればよいと考えています。また、情報の流れは、国外から国内だけではなく、日本のがん登録の現状や現場の声を海外に伝える方向へも積極的に広げていきたいです。

今年度は、英国のがん登録に留学経験をお持ちの松坂方士先生にご協力いただき、以前より活発に活動するつもりです。

## 安全管理委員会 活動報告

西野 善一 副理事長

宮城県立がんセンター研究所  
がん疫学・予防研究部



昨年公布された「がん登録推進法」の第25条では、国、都道府県、市町村およびこれらから事務の委託を受けた者に対してがん登録にかかわる情報の漏えい、滅失及び毀損の防止その他の適切な管理のために必要な措置を講じなければならないとする適切な安全管理措置についての義務を定めている。安全管理を適切な状態に維持するには各事業者が定期的に自己点検と評価を行った上で改善を行う取組みを続けることが必要だが、それとともに独立性を持つ外部機関から客観的な点検、評価を受け認証を得ることが安全管理措置に対する社会からの信頼を高める上でも重要である。

JACRでは定款で実施する事業の1つとして「がん登録室の機密保持基準の策定及び公表・認定事業」を掲げており、これをふまえて安全管理委員会は各登録における安全管理措置の実施状況について外部モニタリング(点検、評価、認定)を行う「がん登録安全管理措置モニタリング事業」の実施に向けた準備をすすめている。現在、理事会で承認された事業方針書を基に外部モニタリングの具体的な手順やモニタリングを実施する項目およびその評価基準の詳細について委員会での検討を行っているところである。これらが確定して理事会での承認を得た後に、今年度は試行的に2-3の登録に対してモニタリングを行う計画である。その際にモニタリングを行う登録は公募し、各登録に対しては費用負担を求めずに実施する。

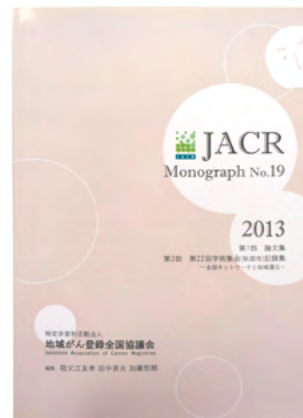
各登録が外部モニタリングを受けるには、マニュアル、個人データ取扱台帳、事故時対応手順といった規程類の整備が前提となるが、厚生労働省研究班が昨年度行った調査ではこれらのいずれも約3割の登録で整備されていない。全ての登録が外部モニタリングを受けることを可能とするために、各登録の規程類整備を支援する取組みも安全管理委員会の役割として重要と考える。

## JACRモノグラフ 編集委員会より

田中 英夫 理事長/JACRモノグラフ編集委員

愛知県がんセンター研究所  
疫学・予防部

JACRモノグラフは、当協議会が年に1回開きます学術集会の記録集として、1995年に発刊され、2013年までに19冊刊行しています。ISBNが取得されており、国内では唯一のがんの記述疫学研究・がん対策に特化した学術的な定期単行本です。



新しくなったモノグラフNO.19

2012年のNo.18までは、その年の学術集会長が、その号の編集にあたっていましたが、2013年のNo.19から、常設の編集委員を設置し、内容の充実を図ることにしました。具体的には、それまでの学術集会の記録集に加えて、地域がん登録資料や政府関係資料を用いたがんの記述疫学研究、院内がん登録資料を用いた病院、医療圏ごとのがん医療機能評価、がん対策の企画、評価、モニタリングに資する政策的な研究の成果などを、原著、総説、資料などの形で、投稿を受け付けることにしました。また、がん対策に対する提言や、海外でのがん登録事業の報告も、掲載の対象としています。

投稿されました原稿は編集委員による査読プロセスを経て、採否が決定されます。No.19では、このプロセスにより9論文が掲載となりました。現在、祖父江友孝編集委員長、私に、片野田耕太新編集委員が加わり、第23回学術集会長の中瀬一則三重大学医学部附属病院がんセンター長の4人の委員で、2014年版の投稿原稿の募集を行っています。研究成果を広く国内にアピールし、将来的に引用できる形で残しておけますので、皆さんからの奮っての投稿をお待ちしています。また、年1回の定期刊行とは別に、上記テーマの中から増刊号(supplement)も出す予定ですので、面白い企画をお持ちの方は、お気軽に編集委員までご相談ください。

# 大分県

大分県福祉保健部健康対策課

## 1. 大分県の概要

大分県は、九州の北東部に位置し、総面積は約6,340 km<sup>2</sup>、人口は約118万人(平成26年3月1日現在)です。18市町村(14市3町1村)から構成され、二次医療圏は6圏あり、地域がん診療連携拠点病院は7医療機関、県指定のがん診療連携協力病院は1医療機関となっています。

また、大分県は、別府温泉や由布院温泉など、全国的にも有名な温泉地を有し、源泉数・湧出量ともに全国一であることから、「おんせん県おおいた」として、全国にPRしています。

## 2. 大分県の地域がん登録事業のはじまりについて



本県の地域がん登録事業の開始は、平成23年4月からで、全国的にも遅い時期での事業開始となりましたが、今年度で4年目を迎えることとなりました。

### 【当時の担当者Aさん談】

本県の地域がん登録事業は、県内の16の地域医師会に担当者が出向き、まだまだ認知度の低かった地域がん登録の制度の説明を行うことからその取り組みが始まりました。各医師会の会議等の開催時にあわせて無理を承知をお願いして、15～30分程度の説明の時間をいただいたのですが、医師会の会議は診療終了後の夜に開催されることが多く、地域がん登録と聞くと、当時、夜の医師会廻りをしたことが思い出されます。

## 3. 地域がん登録室の紹介

地域がん登録室は、大分県庁別館4階の福祉保健部健康対策課にあり、標準DBSを導入し、直営で登録事業を実施しています。

登録室の体制は、健康対策課長を兼務する地域がん登録室長(医師)をはじめ、専任の保健師1名(非常勤嘱託職員)と事務職員2名(臨時職員)、そして、兼務職員の健康対策課職員3名(医師及び保健師、事務職員)で登録業務に取り組んでいます。

届出票の提出状況は、年間約1万件弱であり、登録開始から現在までの届出件数は、32,940件(平成26年6月末現在、2009年～2014年診断例の合計)、死亡小票の届出件数は、年間約1万4千件となっています。

また、2011年診断例については、集約・統計の作業がほぼ完了しており、死亡小票のみによる把握分(DCO)も多く、より精度を高めるために昨年度末に遡り調査を実施し、現在、その入力・集計作業を進めているところです。



おんせん県おおいた



地域がん登録室のスタッフ

### 【事業開始時からの担当者Bさん談】

地域がん登録を担当する前から、大分県はがんの死亡率が低いと聞いていましたので、自分の担当している地域がん登録の集計結果により、その実態が明らかになるのではないかと楽しみにしています。死亡率が低いのは、実際に、本県のがん罹患患者が少ないのか、あるいは病院の治療成績がよいのか、もしかしたら、本県の食べ物が良いからなのか??などと、いろいろと想像しています。

## 4. 現状と課題

本県では届出票の約70%弱が、がん診療連携拠点病院や県指定のがん協力病院からの提出であり、引き続き今後も、がん拠点病院以外の医療機関から届出の協力をさせていただくことが必要であると考えています。

また、特定臓器の症例の件数が少ない傾向があるものと思われ、特定臓器のがんを専門的に治療している医療機関からの届出が課題であると思います。

本県では、今年度、2011年診断例について、国立がん研究センターへ全国がん罹患モニタリング集計用データを提出する予定です。これにより、登録事業の開始から概ね一通りの業務が一巡し、今後は、これまでの登録事業の成果をはじめ県民の皆様にご公表することとなりますが、この地域がん登録のデータをどのように活用していくかが、大きな課題になると思います。

## 5. 最後に

本県の地域がん登録事業は、業務の開始から4年目とまだまだ始まったばかりではありますが、医師会や医療機関の皆様のご協力により、事業が円滑に進捗していることを感謝申し上げますとともに、今後も、一層のご協力をいただければと考えております。

また、国立がん研究センターをはじめ関係する皆様におかれましては、今後も一層の精度向上が図られるよう、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

よろしくお祈りします



大分県応援団「鳥」めじろん



## 1. 京都府のがん登録の歴史

京都府の地域がん登録は、昭和54年に開始された京都消化器医会「胃がんの実態調査」を原点として、昭和57年より京都府医師会が全がん登録を開始し、昭和63年より京都府の事業を京都府医師会が受託する形式となった。

医師会の呼び掛けにより病院だけでなく多くの診療所も参加して継続されてきた届出は、当初は年間5千件程度であったものが徐々に増加し、平成17年には1万件を突破、その後、院内がん登録が整備されたことなどの追い風を受けて、平成22年には2万件を超す登録がなされた。

また、京都府では長らく独自の届出様式と登録項目を用いてきたが、第3次対がん10か年総合戦略事業等で行き詰まった標準化と精度向上の取り組みなどを踏まえ、2010年症例より標準登録様式と標準データベースシステムを導入し、2014年2月には2010年症例の報告書が完成した。



京都府医師会館

## 2. 登録室紹介

京都府の登録室は、京都府医師会館の事務所に設けられている。京都府医師会の担当理事（医師）が管理者となり、事務担当1名（常勤）、実務担当2名（非常勤）により運営されてきた。実務担当2名は登録歴10年以上のベテランで、コーディングや入力作業を円滑に実施している。近年は登録件数が急増したため、臨時的に非常勤職員を1名増員して対処しているが、今後、恒常的な人員体制の強化が望まれる。



京都府がん登録室

## 3. がん登録事業委員会

京都府において地域がん登録事業に関する諸問題は、京都府医師会のがん登録事業委員会において協議されている。委員会はがん診療連携拠点病院などの医師12名と京都府の担当者が参加して隔月で開催され、報告書の作成や個人情報の保護などについて協議を行ってきた。最近では、昨年「がん登録等の推進に関する法律」が成立したことを受けて、全国がん登録への対応が主要議題となっている。

## 4. 今後の課題

京都府において、地域がん登録事業の課題としてあげられているものを列挙すると以下のとおりである。

- (1) 報告書作成期間の短縮／遡り調査の実施
- (2) 安全管理体制の強化
- (3) 専用ホームページの作成
- (4) データに基づく行政や関係団体への積極的提案
- (5) がん検診との連携
- (6) 人員体制の補強

## 5. 最後に

これまで独自の路線で運営されてきた京都府の地域がん登録は、今、標準化の波にさらされ、続いて全国がん登録の渦に飲み込まれようとしています。今後、大きな転換期を迎える地域がん登録事業を、円滑に次のステージへ進ませていきたいと考えておりますが、まだまだ情報と準備が不足しておりますので、何とぞ各県登録室や地域がん登録全国協議会のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# 京都府

(一社) 京都府医師会 地域医療1課  
田中 秀和



がんに立ち向かう患者さんに  
希望をお届けするのも、私たちの仕事です。



ONCOLOGY (オンコロジー) は、腫瘍学・がん研究を表す言葉です。

すべては、患者さんが希望をもってがんに立ち向かえるがん医療の実現のために。  
私たち中外製薬は、革新的な医薬品の研究開発・生産・情報提供はもとより、  
患者さんやご家族、医療関係者に向けたセミナーの開催、最新がん医療の紹介  
など、さまざまな支援活動を行っています。

**がん医療の最前線で、ともに。中外オンコロジー**

がん情報ガイド

検索

<http://gan-guide.jp>



北海道のがんデータの基礎となる  
精度の高いデータを蓄えていきたい



北海道のがん登録は歴史が古く、昭和47年から登録事業が行われております。1992年からは当時委託業務先であった北海道対がん協会が中心となり、内容の充実と精度の向上を図るため、北海道独自システムへの登録作業が開始され、データベース化が進められてきました。

2009年4月からはがん登録情報の標準化を目的に、標準DBSの導入が進められ、委託業務先が都道府県がん診療連携拠点病院である北海道がんセンター内地域がん登録室に移り、登録作業が進められています。

届出の件数は年々増加しており、届出件数は2009年症例で約35,000件の届出がありましたが、2010年症例では約40,000件弱となり、2011年症例では40,000件を超える届出となりました。

届出件数は年々増加しておりますが、登録室のメンバーが件数増加に伴い増員されておらず、登録件数に対してマンパワー不足が問題となっておりますが、現在登録作業の効率化を図るため、電子データ等による受取や登録作業の見直しなどを行っています。

今後情報の精度を高めるため、遡り調査などの実施が必須であると考えておりますが、こちらも予算やマンパワー不足などの関係から実施には至っておらず、今後の検討課題となっております。

北海道には現在、がん診療連携拠点病院が21施設、がん診療連携指定病院が17施設ありますが、届出件数の約8割が拠点病院及び指定病院からの届出となっております。

今後は一層の協力体制をお願いするとともに、まだ提出のない医療機関へはデータ提出を協力して頂けるよう行政担当と連携しながら、限られた中ではありますが、北海道のがんデータの基礎となる精度の高いデータを蓄えていけるよう今後も登録作業を進めていきたいと思っております。

#### 北海道地域がん登録室メンバー (平成26年6月現在)

地域がん登録室室長 (兼 統括診療部長)	高橋 将人
地域がん登録室係長 (兼 診療情報管理係長)	盛永 剛
地域がん登録室職員 (兼 院内がん登録室職員)	齊藤 真美
地域がん登録室職員 (兼 院内がん登録室職員)	山口 小百合
地域がん登録室 非常勤嘱託員	7名

## 特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会 平成26年度通常総会報告

● 太田 樹里

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会 事務局

特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会平成26年度通常総会を、2014年6月13日(金)三重県津市の三重県歯科医師会館にて開催いたしました。当日は28名の方に

ご来場いただきました。お忙しい中ありがとうございました。以下、平成26年度通常総会決議事項をご報告いたします。

### 平成26年度 通常総会

正会員49名中 出席者49名 欠席者0名

出席者の内、本人出席15名、代理出席者へ表決委任13名、理事長を代理人として表決委任18名、表決権行使書による表決3名、合計49名

第一号議案	平成25年度の事業報告(事業報告、決算報告、監査報告)の件 (承認)
第二号議案	平成26年度の事業計画書(修正案)と活動予算書(補正案)の件 (承認)
第三号議案	平成27年度の事業計画書案と活動予算書案の件 (承認)
第四号議案	第24回学術集会会長の選任の件 本件は、理事会より選出された猿木信裕氏(群馬県)が選任され、就任いたしました。
第五号議案	理事・監事の選任 定款により理事及び監事の全員が平成26年6月末日をもって任期満了となるのを受け、原案通り、平成26年7月1日以降の役員として、理事8名の重任が承認されました。また、新たに4名が理事に選任、1名が監事に選任され、就任いたしました。 7月1日就任(任期:~平成28年6月30日) 理事長 田中英夫氏 副理事長 西野善一氏、柴田亜希子氏 理事 早田みどり氏、三上春夫氏、茂木文孝氏、猿木信裕氏、有田健一氏、安田誠史氏、服部昌和氏、井岡亜希子氏、大木いずみ氏 監事 片山佳代子氏
第六号議案	名誉会員の推薦 岡本直幸氏が名誉会員へ推薦され、承認されました。
報告事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員数、役員、専門委員についての報告</li> <li>・ 事務局体制についての報告</li> <li>・ 12月20日のシンポジウムの開催について</li> </ul>

以上



# **Synix Oncology**

サイニクス株式会社は  
地域がん登録全国協議会を支援しています

[www.synix.co.jp/oncology](http://www.synix.co.jp/oncology)

がん、疫学の分析業務を通して製薬企業の創薬・育薬をサポートしています

特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会

# JACR事務局だより

NPO法人 地域がん登録全国協議会事務局

太田 樹里

## 1 会員の入会について

平成26年度2月以降に新たにご加入されました賛助会員をご紹介します。賛助会員には、日本医師会様、日本歯科医師会様、個人会員1名様にご加入いただきました。地域がん登録法の法制化後も、皆様からの御賛助によって地域がん登録事業の必要性和御理解を深めていただけるよう、今後も活動して参ります。

賛助会員数が  
24団体4個人に!

賛助会員



日本医師会



日本歯科医師会

## 2 岡本名誉会員について

岡本直幸氏は、地域がん登録全国協議会の設立以前から、神奈川県のご地域がん登録事業を牽引してこられました。また平成22年度の特定非営利法人化の際には、第3代目の理事長としてご活躍されました。理事長退任後は、顧問としてご協力をいただいております。これまで地域がん登録事業及び協議会活動の発展にご尽力された功績を称え、名誉会員になることが、6月の総会で承認されました。

多くの功績を称え、  
岡本直幸氏が  
名誉会員に!



N. Okamoto

## 有料刊行物のお申し込み方法

### 1 メールまたはFAXでお申し込み

下記必要事項をご記入いただき、JACR事務局までメールまたはFAXでお申し込みください。

Eメール: office@jacr.info FAX: 03-3547-5993

必要事項

お名前(ふりがな)/タイトル及び冊数  
連絡先(TEL・FAX・E-mail)  
お届け先(郵便番号・住所)/請求書等宛名

## 3 学術集会開催地について

平成27年度に開催する第24回学術集会開催地が、群馬県に決定いたしました。群馬県立がんセンターの猿木信裕院長の下、平成27年6月10日(水)、11日(木)に開催される予定です。今後、ウェブサイトでも情報を公開いたします。

また、平成28年度に開催予定の第25回学術集会開催地の応募を開始しております(募集期間平成26年7月1日(火)~9月末日)。詳しくは、ウェブサイトをご確認ください。正会員の皆様からの応募をお待ちしております。

たくさんのご応募お待ちしております!

学術集会開催地募集

[http://www.jacr.info/meeting/pdf/201425th\\_meeting\\_info.pdf](http://www.jacr.info/meeting/pdf/201425th_meeting_info.pdf)



## 4 刊行物の販売について

平成25年度より、定期刊行誌のMonographが有料の刊行物になりました。定価¥2,300(税抜)で販売しております。その他、冊子販売も行っております。ご購入を希望される場合は、協議会にてE-mailもしくはFAXにてご連絡ください。

平成26年度刊行予定のMonograph 20についても、販売を予定しております。



有料刊行物のお申し込み方法は  
下記をご覧ください

### 2 受付確認後、着払いにて発送

ご連絡をいただきましたらメールまたはFAXにて受付確認および請求書を送付し、着払いにて発送いたします。

[お問合せ先]

特定非営利活動法人 地域がん登録全国協議会 事務局  
TEL: 03-3547-5992 URL: <http://www.jacr.info/>

国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計研究部  
**地域がん登録室便り**

松田 智大 堀 芽久美

国立がん研究センター がん対策情報センター  
 がん統計研究部 地域がん登録室

今年も夏が近づいてきました。皆様、夏休みの予定はお決まりでしょうか。考える暇もなく秋を迎える人もいるとかいないとか。とりあえず、どんな人も夏バテだけには気をつけましょうね。

### 1 がん登録の標準化と専門家パネル

標準システム利用地域は40県、導入作業中である岩手県、鳥取県を合わせると42県となりました。全国がん登録移行への道筋も見えてきたのではないのでしょうか。また、今年度も地域がん登録標準システム利用推進専門家パネル委員会が組織され、地域がん登録の標準化のさらなる促進が期待できます。

### 2 がんの罹患数・率の公表

全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ2009・2010)の報告書と集計表をそれぞれウェブサイトに掲載しています。➤

#### ■ 報告書

<http://ganjoho.jp/professional/statistics/monita.html>

#### ■ 集計表

<http://ganjoho.jp/professional/statistics/statistics.html>

➤ MCIJ2009では人口カバー率が初めて過半数を超え、MCIJ2010では報告書発行までの期間が1年短縮して3年3ヶ月となり、即時性が高まりました。ご協力いただいた道府県がん登録室の皆様にご心より感謝いたします。

### 3 地域がん登録行政担当者・実務者研修の開催

5月14日～15日の日程で、今年度の第1回地域がん登録行政担当者・実務者研修会を開催し、72名の参加がありました。全国がん登録をテーマとした講義があり、また研修会後には全国がん登録に関する説明会も開催され、新たな体制への移行を強く感じさせる2日間となりました。

第2回は12月の開催予定です。これまでの研修会に対していただいた意見や、これからの全国がん登録の準備状況を反映して、参加する皆様の要望に応えることができるように工夫したプログラムを作成していきたいと思っています。

#### ➡ 国立がんセンター

<http://ganjoho.jp/professional/>



私たちの活動にご協力ください

## 賛助会員(個人・団体)を随時募集しています

賛助会員

個人

年間 5,000円

団体 1口

年間 50,000円 (1口以上)

○寄付金も受け付けています

○入会のお申込みや寄付等のお問い合わせはウェブサイトの「お問合せ」よりお知らせください

<http://www.jacr.info/>

#### 主な事業内容

がん登録に関する学術集会、セミナー等の開催  
 地域がん登録に関する様々な情報の提供  
 がん統計、がん登録に関する調査や研究の実施  
 国際がん登録協議会(IACR)への参加・協力がん登録に携わる人材の育成やサポート  
 地域がん登録室の安全管理措置に関する活動  
 地域がん登録の広報媒体、冊子、教材、資料等の発行

#### 関連学会 一覧

日程	学会名	開催場所
2014(平成26年) 8月28～30日	日本癌治療学会(第52回)	横浜市 パシフィック横浜
9月25～27日	日本癌学会学術総会(第73回)	横浜市 パシフィック横浜
11月5～7日	日本公衆衛生学会(第73回)	栃木県 栃木県総合文化センター
2015(平成27年) 1月21～23日	日本疫学会学術総会(第25回)	愛知県 ウィンクあいち
6月10～11日	地域がん登録全国協議会学術集会(第24回)	群馬県前橋市

